

山行報告書

三島勤労者山岳会

通算山行NO		NO・627		報告者	後藤 隆徳	
年月日		93・03・12(金)~14(日)				
山行名		冬山個人山行				
山名		近江・武奈ヶ岳(標高1214m)、伊吹山(標高1377m)				
標高差・困難度		イン谷口~頂上=1000m(武奈ヶ岳)、3合目~頂上=600m(伊吹山)				
走行距離		下土狩~イン谷口=440Km				
コース 及 タイム	3/12(金)	下土狩18:50~東名~名神~大津IC~イン谷口1:30(泊)				
	/13(土)	起床5:00~出発6:25-金糞峠7:55-比良スキー場9:00-武奈ヶ岳11:20-中峠11:00-イン谷口12:35-伊吹山3合目(泊)				
	/14(日)	起床3:40~出発4:25-頂上7:15~30-3合目8:25-下土狩15:00				
参加者・役割分担		渡辺保代	49			
CL	後藤隆徳	46	耕土 説子			42
	白井聖男	37				
針	樺美喜代	43				
3/12	<p>東名、名神を経由して大津ICで下り志賀町比良に向かう。山への案内板がなく入口が分からない。比良スキー場の看板に従うと途中で案内板はあった。林道を少し登ると琵琶湖が見渡せる多目的広場がありここに幕営する。立派なトイレもある。</p>					
3/13	<p>天気は曇り。簡単な朝食を摂り正面谷を金糞峠に向かう。雪はすぐに現れ凍っているのでアイゼンを付ける。感じのよい金糞峠を越えてコッパ谷を通り、八雲ヶ原湿原に向かう。この辺りは尾瀬を小さくしたような感じだった。比良スキー場を横切り南西稜を登る。ズック履きの中学生の団が下山してきた。こんなに早く頂上に登ったのだろうか。ブナ、ミズナラの美しい林相の谷筋に行く。雪は3m位か。トレースはその先でなかった。さっきの中学生はここまでだった様だ。</p> <p>天気も悪くなってきた。私がトップでピッチを上げる。コヤマノ岳を巻くように行くと武奈ヶ岳を一望できるコルに達した。頂稜付近は樹木も無く雪で被われた山容はとても1200m級の山とは思えなかった。少し休んだ後天気と競争で登ると簡単に頂上に着いた。頂上は360度の展望で琵琶湖、奥美濃山地、比良の山々が一望できた。しかし、回りの山々はガスってきた。急いで下山する。コヤマノ岳に達する頃吹雪となる。テープを頼りに中峠に下り金糞峠に向かう。下から沢山登ってくる。</p> <p>先程の中学生がいたので話を聞くと大阪から来て、クラブは自然観察部といった。先生も一人では大変だ。下山後、途中で昼食にし、琵琶湖を一周し浅井町須賀谷で温泉に入った。夕方伊吹山3合目に登り泊まる。他のテントも4~5張あった。</p>					
3/14	<p>夜半風が強くフライが剥がされうるさくてまいった。渡辺君ははじめて寝て寒かった様だ。天気は曇ひとつない快晴だが風は強く寒い。やはりこちらは裏日本の気象そのもので静岡より厳しい。ランプを点け出発。7合目から雪が出るがアイゼンを付ける程のことではない。回りは樹木はなく低灌木があるのみだ。</p> <p>ジクザグの道をグングン登るとだだっ広いに頂上に着いた。立派な社、日本武尊像、測候所などか立ち並ぶ。360度の展望だがとにかく風が強く寒い。社の中に逃げ込み休憩。後ろを登ってきた、京都の畝傍(うねび)高校登山部の人達が15人位入ってきた。この寒いのに帽子、手袋が無い人がいる。村松と渡辺が貸してあげる。一人外人の先生がいた。先に下山。途中、関ヶ原合戦跡を見学、三島に向かう。</p>					